

## 2019年北方森林学会春季行事報告

### ～道産広葉樹の育成と利用（地産地消）に向けた取組を学ぶ～

2019年の春季行事は、6月28日（金）に開催し、「道産広葉樹の育成と利用（地産地消）に向けた取組を学ぶ」をテーマに、北海道産の広葉樹材の活用に関する上川総合振興局南部森林室（道有林）の取組みについてお話を伺うとともに、広葉樹材を製材されている昭和木材株式会社と、家具の製造をされている株式会社カンディハウス二社の見学をさせていただきました。参加者は渋谷正人会長（北海道大学農学研究院）をはじめ総勢71名でした（北大2、東京大学演習林13、北海道森林管理局24、森林総研北海道支所3、道総研4、一般25）。行程は、観光バス組は8時に札幌駅北口を出発し、10時30分に昭和木材株式会社で自動車組と合流し、午前には昭和木材株式会社見学及び南部森林室の説明を受けました。その後各自上川総合振興局辺りで昼食をとり、午後に株式会社カンディハウスにうかがいました。

昭和木材株式会社では2班に分かれ、貯木場と、製材や合板の接着などの機械が稼働する様子について見学し説明を受けました。また、上川総合振興局南部森林室からは、管内の広葉樹資源育成と持続的利用の取組みについて教えていただきました。株式会社カンディハウスでは、道産の広葉樹材利用取組みについて説明を受けた後、幾つかの班に分かれ、椅子などの家具製作の過程について教えていただきました。また、ショールームで家具に触れながら見学させていただきました。

いずれの訪問先でも、71名という大人数で伺ったにもかかわらず、丁寧な説明を受け、道産広葉樹材の活用について考える良い機会となりました。

最後に、今回の見学を受け入れ、貴重なお話をきかせていただきました昭和木材株式会社高橋秀樹会長と高橋謙太郎常務取締役、株式会社カンディハウスの渡辺直行会長と笠松伸一本部長、松原秀浩リーダー、そして南部森林室の取組みについて説明いただきました濱田革室長に厚く御礼申し上げます。



写真はともに昭和木材株式会社：左 貯木場、右 工場内